



「フェアプレーニュース」のダウンロードはこちらから

フェアプレーストーリー

ライバルのピンチを救った給水

陸上競技(マラソン)

加世田梨花選手

オリンピック出場権の懸かった大会。2024年の名古屋ウイメンズマラソン。

0.5km地点の給水ポイントで鈴木選手が給水に失敗してしまいました。

「中間地点まで好調の景色や沿道の応援を見る余裕がある」という加世田梨花選手。

近くを走っていた鈴木選手が給水に失敗してしまいました。

その瞬間、自然とドリンクを手渡していました。

スッ...

その背景には自身の経験がありました。初めて臨んだマラソンで、加世田選手は給水に失敗してしまいました。

またフタバベスト2023世界陸上競技選手権大会でも大集団のなか給水に失敗した過去があったのです。

そのときに同じチームの松田選手に助けられました。

「ゴールでまた会おうね」と声をかけ合う文化があるんです。

レース前には「ゴールでまた会おうね」と声をかけ合う文化があるんです。

マラソン選手は長い期間をかけて調整しスタートラインに立つ仲間。

過度な42.195kmを走る選手同士の強い絆。

お互いをリスペクトし合う精神がフェアプレーの瞬間を生み出したのです。

間く! マラソン選手同士の尊敬し合う気持ちから生まれた行動

「特別なことじゃない! 助け合いは当たり前!」

「特別なことじゃない! 助け合いは当たり前!」

影響をもたらします。自身も給水に失敗した経験から、たとえライバルでも困っている選手を助けるのは、自分にとって「当たり前前」の行動であり、とっさに出た思いやりだったのです。

「どの選手も、ただ給水の練習をしていても、レース本番では失敗してしまうことがあるほど、給水はシビアで難しいものなのです。」

「くじけそうになったりもしただけ大切な自分自身のよさをちゃんと知ることだと思えます。人と比較して『あの選手のほうが何でもできる』と自分を失うのではなく、プライドを捨てて自らの弱さと向き合ったとき、初めて本当の自分の強さやよさが見えてくるもの。私もそうでした。自分にはしかないものは必ずあるという信念を持つようになったから、周囲からも『変わったね』と言われることが増えました。」



加世田梨花選手 陸上競技(マラソン)ダイハツ 1999年3月2日生まれ 千葉県市川市出身 成田高校から頭角を現し、名城大学では全日本大学女子駅伝4連覇に貢献。2021年にダイハツ入り。2023年世界選手権代表



2025年のクイーンズ駅伝に出場。チームメイトとともにタスキをつなぎ、オリンピックの舞台へ向けて、一歩一歩前進中だ

自分の弱さを受け入れることが自分の再発見につながる

フェアプレーニュースから探究の種を見つけてみよう!



フェアプレーニュースはJSPOホームページでチェック!



- フェアプレー7カ条
- ①約束を守ろう
  - ②感謝しよう
  - ③全力をつくそう
  - ④挑戦しよう
  - ⑤仲間を信じよう
  - ⑥思いやりを持とう
  - ⑦楽しもう



フェアプレーニュース 第173号 2026年6月29日発行(次回は2026年9月28日発行予定です) フェアプレーニュースは、スポーツ振興くじの助成を受けて制作・配送をしています。 企画:JSPO(公益財団法人日本スポーツ協会) https://www.japan-sports.or.jp/

